

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryu UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 国立大学法人熊本大学
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名：【NITS カフェ in KUMAMOTO】 時代の変化に対応した学校改革を推進するためのプランの創造 めざせ学校改革！ワクワクする学校について語ろう！
テーマ： 時代の変化に対応した学校改革を推進するためのプランの創造 次期学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現のためには、時代の変化に対応した学校改革が求められる。そこで、大胆な学校改革を行い成果を上げている工藤勇一校長を招聘し、その具体的な取組について学ぶ。参加者は講演を聴くだけでなく、自分たちの改革プランを考え発表を行う。さらに、工藤校長と教育哲学を専門とする苫野一徳准教授とのパネルディスカッションの中から、これからの学校のあるべき姿について参加者と一緒に考えていく。	
内容： 1 講演 千代田区立麴町中学校校長 工藤勇一 『学校の「当たり前」をやめた。』 人々は、校則が本質ではないことを知っている。でも、変えられないでいる。そこを変える必要があり、実践を行ってきた。子どもにとって「心的に安全状態」を作る。麴町中では宿題を全廃した。定期テストを廃して単元テストを行い、再テストを可能とした。全員担任制にすることで、教員も生徒もクラスを比較しないようになった。日本の教育は、ルールを引いて引っ張り、理想に近づける指導を行ってきた。教育の目的は「人が社会の中でよりよく生き、よりよい社会を作る」こと。従来は、常に教師の立場から考えてきたが、これからは、学習者主体の教育にしていく。学校に合わせるのではなく、その子に必要な教育を考えていく。手段が目的化してはならない。社会と学校をシームレス化し、「自分で考え、自分で行動できるようにすること」だ。子どもたちが「世の中ってまんざらでもない！」「大人ってけっこう素敵だ！」と思える教育を。 2 グループディスカッションとグループ発表「ワクワクする学校について語ろう！」 (参加者がワクワクする学校にするための具体的な取組についての語り合い発表を行う。) 4 パネルディスカッション パネリスト：工藤勇一校長・苫野一徳准教授 苫野：どうすれば実現できるかを考えればよい。公教育の構造転換が必要。 工藤：感情をコントロールし、対応性を身に付けることが大切。安心安全な環境だとストレスがない。 学校の文化はまことしやかに語られるが、人の心が動かない言葉は意味がない。 苫野：自由の相互承認。教育の本質が何なのかを考えなければならない。 工藤：上位目的が理解されていれば、合意形成ができるようになる。変えようと思えば変えられる。	
成果： 参加者へは、本会全体について、6 から 1 までの 6 段階の評価をしてもらった。ほぼ全員が 6 または 5 の評価をしており、極めて高評価を得た。 参加者の多くは、「自分の学校でもできる気がしてきた」「上位目標と対話による合意形成が必要だと感じた」「できることからやっていきたい」という感想を得ることができた。学校改革の本質を考え実行するという意味において、十分に目的を達成することができた。	
アイデアや工夫したこと： ・参加者同士による対話が活性化できるように、テーブルの形に机を配置した。 ・参加者のアイデアが全員に共有できるように、実物投影機でアイデアを投影できるようにした。 ・飲み物を準備し、休憩時間を十分確保することで、参加者同士の親睦が深まるようにした。	

<写真・図など>



1. 開会：150人以上の参加者



2. 工藤勇一校長による講演



3. グループ討議 学校をワクワクするアイデア



4. 3グループごとによる発表と意見交換



5. 代表グループによるアイデアの全体発表



6. 工藤校長と苫野准教授によるディスカッション